

R5.2.28 市民ワークショップ<つるおか未来カフェ> (まとめ)

目的

第2次鶴岡市総合計画の中間見直しに当たり、市民の多様な考えや意向等を把握し、計画に反映させることを目的に市民ワークショップを開催。

今回は、令和4年度に「鶴岡を住みたい街ナンバーワンにするために」をテーマに1年間にわたり探求学習を行い、学びを深めた鶴岡工業高等学校1年生を対象に下記のとおりワークショップを開催した。

開催概要

日時：令和5年2月28日（火）13時20分から15時30分

場所：山形県立鶴岡工業高等学校

参加者：同高等学校 機械科、電気電子科、情報通信科、建築科の1年生32名（男26名 女6名）

コーディネーター：山形大学農学部附属やまがたフィールド科学センター長 平 智 先生（鶴岡市総合計画審議会企画専門委員会委員長）

内容：同高等学校の1年生32名を対象にグループを8つに分け、下記2つのテーマのどちらかを選択。各グループで、テーマについて

①現実と②実現可能性に捉われない解決策という観点からそれぞれ意見を出し合い発表を行った。

テーマ：
・「どのようにして交流人口や関係人口を増やすか」
・「子育てしやすいまちにするにはどうしたら良いか」



R5.2.28 市民ワークショップ<つるおか未来カフェ> (まとめ)

意見概要

テーマ：どのようにして交流人口や関係人口を増やすか (多かった主な意見) ×3グループ

<夢を込めた意見>

人を呼び込める施設を建設

- ・食文化創造都市を生かして食文化を楽しめる施設をつくる
- ・荘銀タクトのようなインパクトのある施設をつくる
- ・遊戯、娯楽施設(動物園、テーマパーク、飲食、アパレル)をつくる

交通インフラを整備

- ・新幹線を鶴岡までつなぐ

ご当地PRキャラを考案

- ・くまモンやふなっしーのような人気キャラを考案する

鶴岡の良さを伝える

- ・鶴岡市とどこかの市民を一部入れ替える

<現実的な意見>

鶴岡の魅力を発信

- ・インターネット(SNS等)やテレビ放送などで、鶴岡の魅力をPR
- ・有名人を起用し、加茂水族館とコラボした魅力発信
- ・観光客のためのスタンプラリーの実施

交通網を強化

- ・バス本数の増加など、特に冬の交通網を強化する
- ・高速道路を増やす

地元回帰を促進

- ・里帰りさせるメリットをつくる

テーマ：子育てしやすいまちにするにはどうしたら良いか (多かった主な意見) ×5グループ

<夢を込めた意見>

子どもが安全に楽しめる施設を充実させる

- ・遊園地のような施設をつくる

保育園や一時預かり施設を充実させる

- ・多くの子どもが通える保育園の整備
- ・保育園を増やし無料とする
- ・保育園を24時間やっているようにする
- ・一時的にいつでも子どもを預けられる施設があると良い

子育て世帯への経済的支援を実施する

- ・出産祝い金、子育て世帯への支援金給付
- ・高校の授業料・制服・給食費・医療費の無償化

合併により地域を活性化させる

- ・三川町と合併し、三川を商業エリア、鶴岡を居住エリアにする

<現実的な意見>

子育てに係る日用品等を支給する

- ・ティッシュやおむつ、医薬品を家庭に支給

子育てを取り巻く環境を充実させる

- ・男性も育休を取りやすくする
- ・子育てに関する相談ができる環境の整備や機会を増やす
- ・親同士で子育てのことを話し合える場の創出
- ・月に何回かベビーシッターを派遣する
- ・子どもにかかるお金を支援
- ・屋内公園をつくる
- ・空き家を改築して保育所をつくる

【意見のまとめ】

テーマ：どのようにして交流人口や関係人口を増やすか

鶴岡の魅力発信の工夫、公共交通網の強化による課題解決策の提案が多くあった。

テーマ：子育てしやすいまちにするにはどうしたら良いか

子どもの遊び場の整備、子育て世帯への経済的負担の軽減、子どもを預けられる環境の整備・充実による課題解決策の提案が多くあった。